

今回の新型コロナウイルスの影響による経済収縮は本当に凄まじいものである。リーマンショックを超えて、第二次世界大恐慌とまで言われている状況である。今後、廃業が進んでいくと考えられるが、一度なくなってしまうと、各方面に散ってしまった従業員はコロナが終息しても戻ってきません。もう元には戻らないのです。企業だけではありません。さまざまな文化もなくなっていく可能性があります。元の状態に戻る場合にも、気の遠くなるような時間が必要となります。急激な経済収縮は、何の準備もできないまま企業が窮地に陥ってしまうわけですが、それでも、資金繰りを含めて出来る限りご支援できればと考えます。雇用調整助成金の申請はあるが、決まったものはあまり増えていないと聞いています。それは、中小企業における法的書類の整備が悪く、許可が下りないとのこと。支援先の規定等の整備も行っていたため、その状況については理解ができますが、その面においても、経済収縮が急すぎて準備が追い付かない状況です。本来はしっかりと企業として対応されていることが望ましいですが。終息まで年単位の覚悟が必要と言われていますが、企業の資金繰りは業界により違うものの、1年以上今日の状況が続いたら、倒産に追い込まれる企業はかなり出てくると考えられます。給付金額については、当初、1ヶ月位の休業を想定したものであると考えられます。しかし、1ヶ月で収まりそうにはありません。今後、増額を検討しなければ固定費を賄えない企業が倒れていきます。そのような状況の中、経営コンサルタントとして、存続に対してのご支援をさせて頂くことと同時に、企業様の状況に応じてですが、コロナ終息後に訪れる新しい時代に向けて、新しい取り組みのご支援をアドバイスさせて頂いております。Zoomが現在大流行ですが、これからはそれだけではなく、働き方が大きく変わり、企業の在り方も大きく変わっていくことでしょう。資本主義自体が問われるとも言われています。我々の常識が大きく変わっていくのです。従来の経営ではなく、新しい経営を追求していくことが重要です。その為に「新しい経営を考える会」を立上げ、従来の経営方法を見直し、大量生産・大量販売を前提とした日本的経営の脱却を図ろうと展開を始めようとしています。その新時代に向けて、私自身何としてもこの状況で生き残らなければなりませんし、そして、一社でも多くの企業を生き残らせるために尽力していきたいと考えている所存でございます。